

『子どものフィジカルアセスメント(全4巻)』 子どもを「知らない」学生の 理解を促すのに最適

総監修：筒井真優美／定価：各巻 29,400 円(本体 28,000 円＋税 5%)，
4 巻セット 117,600 円(本体 112,000 円＋税 5%)
発行：ビデオ・バック・ニッポン／TEL：03-3405-3173



社会環境の変化で身近に子どもがいないこともあり、子どもと関わりをもった経験のある学生は極めて少ない。そのため学生は、関わり方だけではなく、子どものいる家庭の様子や発達段階に合わせた日常生活援助方法などすべてにおいて具体的なイメージがつかめず、大まかな想像しかできずに、実際の場面で戸惑いを感じている。このことは、小児看護教育をより難しくしている。

子どもは、動悸や胸痛があってもうまく言葉で伝えることができず、「どきどきする」「きもちわるい」「おなかがいたい」と表現することがある。したがって、フィジカルエグザミネーションから得た情報を分析する必要性が、成人より高い。また、成人に比較して身体的、生理学的な機能が未熟であるため症状の変化が早く、容易に重篤な状態に陥りやすい。そこで異常の早期発見のために、小児の特徴を把握し発達段階に応じた的確かつ迅速なフィジカルアセスメントが必要であると考えられる。

この DVD は、子どものフィジカルアセスメントの考え方から始まり、全身と頭部、胸部、腹部・鼠径部と神経学的アセスメント、の全 4 巻からなっている。

子どもの発達段階によっては、人見知りや環境に適応できずに泣いたり拒否されたりして診察しにくいことを多く経験する。アセスメントの準備・子どもとの接し方では、知的機能、情緒・社

会的機能を想起させながら、親子関係も含めて観察することの重要性を説いている。大切なところは再度その場面を出し、繰り返す。一瞬自分が間違っただけでもどしボタンを押したのかと錯覚したほどである。強調したいところや注意を促すところは話しかけるように呼びかける。全編にわたり作り手の愛情を強く感じた。今までは重要なところで教員が一時停止ボタンを押して説明していたこともスムーズに行われている。また、アセスメントの準備のなかに必要物品の映像と説明がない。このことは、学校で何を教えればよいのか、反対に教えることが難しいものは何なのかを考える機会を与えてくれる。また、教えることが難しいものは、視聴覚教材を利用すればよいことにも気づかせてくれた。

肺音や心音は、特殊な聴診器を用いて子どもに聴取している場面に図を挿入して説明している。異常肺音も実際に流され、どんなときに聴かれるかという説明と子どもアセスメントするうえで欠かせないものとなっている。心音の異常(心雑音)も挿入されているのかと期待したが、それはなかった。

学内演習においても役立ち、看護学生の「ここが知りたい!」や教員の「ここを知ってほしい!」に応えてくれるものである。